

肥大力K

N-0.2% P-0.0% K-3.0%
肥料登録 生第101403号

「肥大力K」は作物を大きくし、収量を増やすためのカリウム肥料です。特殊製造技術により、カリウムを必要なときに最大吸収させることが可能になりました。カリウムは生育初期から生育後期まで必須のミネラルであり、作物の肥大に欠かす事が出来ない栄養成分ですが、問題は水に溶解易く簡単に流失することです。「肥大力K」はカリウムが即座に葉面から吸収されることにより、最もカリウムが必要な肥大期に驚きの効果を発揮します。

- 効果 1 作物の肥大促進
- 効果 2 根の発育促進
- 効果 3 果実の熟度促進
- 効果 4 抵抗力・耐候力の増加

●使用方法 500～1,000倍で希釈
生育中2～3回程度葉面散布して下さい。

※根菜類に限らず、果菜類でも果実の肥大が悪い場合ご使用下さい。

※連続散布は7日～10日 間隔をあけてご使用下さい。

特にじゃがいも、玉葱、さつまいもなどの
根菜類に驚きの効果を発揮します。



収穫したコガネセンガンの
さつまいも



収穫した早生玉ねぎ

希釈倍率
500倍～1000倍
葉面散布



規格：2kg ・ 10kg

小売価格(税別)：2kg/2,000円 10kg/5,000円

製造元：有限会社 不二養土 ※日本製

※価格は2016年7月現在

• 「肥大力K」の特性

特殊製造技術により開発された「肥大力K」は、細胞液の浸透圧を維持し、pHの調整、酵素作用の調節を行います。特に根菜類などの肥大に効果が期待されます。

• 原料……草木灰(ヤシ殻)抽出カリウム

• 施用の効果

- | | |
|-------------|---|
| ①作物の肥大促進 | 窒素やリン酸の吸収を促進し、成長が盛んな部分の生理作用が活発な部分に移動し、集積されます。 |
| ②根の発育促進 | タンパク質の合成で、酵素の活性化としての働きが、根や茎を強くする細胞の伸長を促します。 |
| ③果実の熟度促進 | 速効性の水溶性カリ肥料で、植物の茎や葉を充実させ、生育の熟度を促進します。 |
| ④抵抗力・耐候力の増加 | 光合成などの多くの機能に関係し、耐病性を高め、乾燥害・寒害への抵抗力を高めます。 |

• 施用方法

作物の生育中(肥大初期より)に2~3回葉面散布にてご使用ください。

葉面散布500倍~1,000倍

※連続散布の場合は7日~10日空ける。

注意事項・保存方法

- ・開封後は早めのご使用をお願いします。
- ・直射日光を避け、冷暗所で保管ください。
- ・有機酵素ですので特有の浮遊物が発生することがありますが、品質には問題ございません。
- ・石灰硫黄合剤、機械油乳剤、銅剤など、アルカリ性の薬剤との混用はさけて下さい。

● 散布量の目安(露地10aあたり)

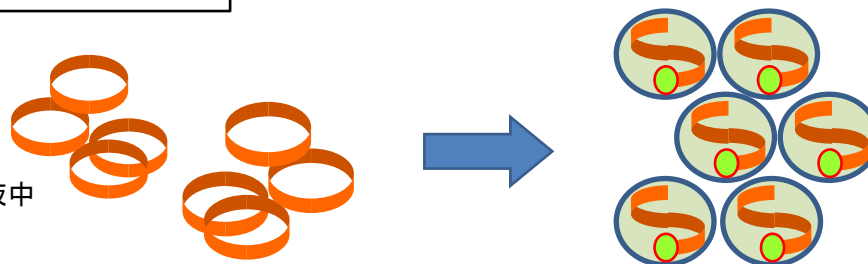
草丈	原液量	500倍希釈散布量
低	200 ml	100 ℓ
中	300 ml	150 ℓ
高	400 ml	200 ℓ

「肥大力K」葉面吸収について

葉面吸収のメカニズムでは、一般的には葉面はクチクラにより疎水性を示し、表面からの吸収は難しいのですが、独自の界面活性処理(発酵する工程で生産される天然界面活性技術)の効果によって特定部位へ付着させ、表皮細胞へ到達することができます。また、到達した表皮細胞にあるチャンネルを刺激することにより、細胞内へ浸透することができます。細胞内へ浸透した物質は再構築され、養分となって植物全体へ移行します。

特徴Ⅰ 物質の分散(均一)化

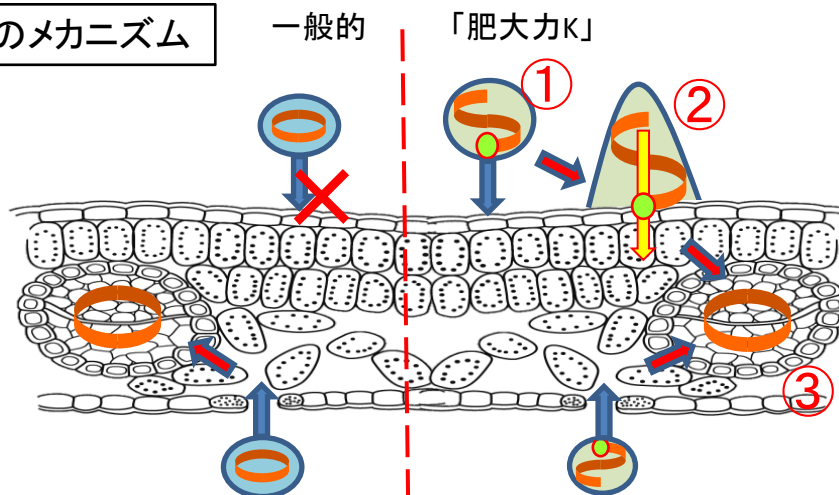
物質は溶解していてもイオンの関係上、水溶液中では局在化している。



酵素の効果により、物質を植物の吸収しやすい形へ変化させ、界面活性の効果により、物質の均一(最小)化ができる。これにより、施用(吸収)効率が飛躍的に向上。

特徴Ⅱ 葉面吸収でのメカニズム

葉面の細孔(気孔を除く)は、養分の粒径に比べ小さく、細胞内へ浸透させるのはかなり難しい。



- ① 独自の界面活性技術により、葉面の特定部位へ付着。
- ② 表皮細胞の細胞チャンネルへ作用し、細胞内へ養分が浸透。
- ③ 細胞内で養分は再構築し、植物体内へ移動。

「肥大カK」の施用例

さつまいも栽培について(玉の肥大が期待できます)

- ・葉面散布が効果的です。芋の肥大が始まる頃
- ・農薬散布時に混用 500倍で2~3回散布する。
(芋づるが隣の畝に到達する頃より)

平成27年度産で収量が23~45%アップした。

通常栽培区	2,400kg	
テスト区 ①	2,960kg	123%
テスト区 ②	3,500kg	145%



収穫したコガネセンガンのさつまいも

馬鈴薯栽培について(玉の肥大が期待できます)

- ・春馬鈴薯の場合開花頃より根の肥大が始まる。
- ・農薬散布時に混用 500倍で2~3回散布する。

平成28年度産 収穫調査(品種ニシュタカ)

4月下旬の早堀り 約4,000kgでした。(長崎県南島原市)
 ※今年は大気不順で疫病の発生が見られたが、肥大カKの散布園では病気は確認されなかった。



ニシュタカの収穫風景

「肥大カK」の施用例

玉ねぎの栽培について(収量アップが期待できます)

- ・葉面散布が効果的です。
(葉枚数6~8枚頃が玉ねぎの肥大期です)
- ・農薬散布時に混用 500倍で2~3回散布する。

収穫量の目標として 10aあたり

- ・超極早生 4,000kg以上
- ・早生種 6,000kg以上



4月末に収穫した早生玉ねぎの大きいものは600g以上のものもありました。

ショウガの栽培について(中国での栽培事例)

- ・葉面散布が効果的です。
(収穫予定の60日前より1回目散布。その後10日おきに2回)
- ・農薬散布時に混用 500倍で3回散布。

3株での収穫調査

- ・肥大カK区 3.8斤(きん) 2.28kg(左)
- ・未使用区 3.2斤(きん) 1.92kg(右)

※未使用区に比べ118%の収量増でした。



左:肥大カK散布区 右:未使用区